

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。〔17番 古畑浩一君登壇〕

○17番（古畑浩一君）

それでは、これより、通告書に基づき、一般質問を行いたいと思います。

一般質問も最後の最後、皆さん大変お疲れのことだと思いますが、もうしばらくお付き合いのほどよろしく願いいたします。

それでは1番、若者が住みやすく定着できるまちづくりの推進について。

- (1) 厚生労働省の発表によりますと2021年生まれが過去最少となる81万人、合計特殊出生率が1.30であるが、糸魚川市はどうなっているか、総人口・出産数・合計特殊出生率などについて教えていただきたいと思います。
- (2) 人口問題についてどのような観点で、どのような取組を行っているのか。
- (3) 人口減少で糸魚川市にどのような影響が出ると考えるのか。
- (4) 医療体制、特に産婦人科の存続についてお聞かせください。
- (5) 魅力ある学校づくり、職場づくり、空き家対策について伺います。
- (6) コロナ禍の糸魚川の経済状況はどうなっているのか。
- (7) 若者が住みやすく定着できるまちづくりのために横断的・総合的な取組が必要ではないか。
- (8) 若者定着総合計画イトヨプランの策定を実践してみたいか。

2、官製談合事件の明確化と責任・慢性的な談合体質をどのように改善していくのか。

- (1) 元都市政策課係長によるえちご押上ひすい海岸駅トイレをめぐる官製談合事件は、事件発生から今日まで、幾多の審査を重ねながらも疑問が深まるばかりとなっております。事件の明確化と責任を明らかにすべきではないでしょうか。
- (2) 健康づくりセンター「はびねす」設計業者入札に当たり、県単価漏えいの事実が明らかとなり、度々こうしたことが繰り返されてきたことが提出資料により明らかとなり、官製談合がこれまでも繰り返されてきた証拠であります。市は官製談合の実態を明らかにする説明責任があると考えますがどうか。
- (3) 糸魚川市は談合天国であるとやゆされますが、実態はどうか。またどのように改善されていくのか。

3、株式会社能生町観光物産センター等の運営について。

- (1) コロナ不況により第3次産業を中心に民間企業が苦しんでおります。営業不振や破産・閉店・廃業・倒産が相次ぐ中、市の指定管理者だけが、リスク分担の名の下に赤字を補填されております。官民格差がひどすぎると思わないのでしょうか。

以上、これにて、第1回目の質問を終了させていただきます。

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

〈午前 11 時 34 分 休憩〉

〈午前 11 時 34 分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

失礼いたします。言い忘れました。

(2) 株式会社能生町観光物産センター・権現荘に対するリスク分担が曖昧と思われませんが、補填費用とその運営について、実態と今後の展望をお伺いいたします。

以上で、1回目の一般質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、4年3月末現在4万171人で、3年度の出生数は171人となっております。合計特殊出生率については、公表されている2020年では1.33となっております。

2点目につきましては、人口減少問題は、総合計画における最重要課題であり、自然減への対応といたしまして、安心して子供を産み育てることができる環境整備や健康づくりを通じて、健康寿命の延伸に努めてまいります。

社会減につきましては、学校の魅力化を推進することで郷土愛にあふれた子供の育成やUIターンの推進に努めております。

3点目につきましては、人口減少により、地域内消費の減少や労働力不足による生産活動の低下につながっております。

4点目につきましては、存続に向け、糸魚川総合病院と連携し、引き続き富山大学へ医師派遣をいただくよう要望しております。

5点目の魅力ある学校づくりにつきましては、ゼロ歳から18歳までの子ども一貫教育方針の下、家庭、地域、学校が連携し、子供たちの自己実現が図られる学校づくりに努めております。

職場づくりにつきましては、引き続き関係機関と連携して、企業への支援とPRに努めてまいります。

空き家対策につきましては、UIターン者に空き家取得費用の一部を支援し、空き家の利活用から若者定着を促進してまいります。

6点目につきましては、経済団体連絡協議会が直近で実施したアンケート調査によりますと、コロナ禍の影響に加え、燃料や物価高騰の影響が強く表れており、対応について検討してまいります。

7点目につきましては、就業支援や出会いの創出など、若者が活躍できるよう市内での連携に努めてまいります。

8点目につきましては、今年度からスタートいたしました第3次総合計画を着実に進めることで、若者の定着に努めてまいります。

2番目の1点目につきましては、有罪判決が確定した事案であり、内容と責任は明らかになっているものと考えております。

2点目につきましては、県単価の漏えいは、落札後の建築設計業務の履行において起きたものであり、大変重く受け止めております。

3点目につきましては、承知しておりませんが、入札監視委員会の設置により進めてまいります。

3番目の1点目につきましては、公共施設として健全な運営継続を目的として補填を行っておりますが、その内容について、皆様からご理解いただけるよう対応してまいります。

2点目につきましては、指定管理者との基本協定に基づき、コロナウイルス感染拡大の影響がリスク分担の不可抗力に該当することから、過去3年間の収支と比較して、指定管理料を算出しております。その額は、3年度2,000万6,900円であり、今後もより一層の収支改善を図るよう取り組んでまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

それでは、第2回目の質問に入らせていただきたいと思います。病気の影響で舌がちょっと回りづらくなっておりまして、丁寧語をしゃべろうとしようとする、どうしても舌が巻いてしまいます。

したがって、皆さんには聞きづらかったり、巻き舌によって大変不快な思いをされるかもしれませんが、これももうじき治りますので、もうしばらくちょっと我慢をしていただきたいと思います。最初に陳謝申し上げます。

さて、糸魚川市の人口ですが、ただいまの答弁では、辛うじてですが4万132人、辛うじて4万人台であります。市のホームページ等を見て、人口の統計、細かな、詳細なる資料を見ますと、4万人を切ってますね。今現在の糸魚川市は、一体何人なんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

令和4年6月1日の時点で、4万132人という人口となっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

では、住民基本台帳のほうでは、どうなっておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

住民基本台帳上の人口という数字で、先ほどの4万132人ということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

3万9,448人という数字は、じゃあどっから出てますか。

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

〈午前11時43分 休憩〉

〈午前11時44分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

失礼いたしました。

3万9,749人という数字につきましては、外国人を含まない数字ということでございます。

したがって、先ほど申し上げた数字が、合わせて糸魚川市の人口という形になります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

とにかく3万人台に入るのが、目前に迫っております。遅かれ早かれだろうとは思って、あんまり細かい数字にこだわってはおりませんが、5万人割るときにも相当な論議をしました。4万人を割ることによって、たといろんな税金の問題ですとか交付税の問題ですとか大きな変化はあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

詳しく個々の試算というのはしてはおりませんが、当然、人口が減りますと税金の問題も、税金の減額といいますかというのも考えられますし、交付税も人口をベースにした算定根拠となっているものについては、影響があるものと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

後期高齢者介護保険の負担料と、いわゆる頭割り予算と言われてるやつね。当然、高齢化率が上がってくると、その分の負担分が大きくなっていくと。いろんな意味で減少していくというのは、生産性が落ちて、いろんな問題も含めて大変だと思うんですが。

そこで、子供の数が、ここしばらく、ここ数年、急激に200人を切ってから170人台と深刻な問題になっております。様々な施策を行っても、子供が減り続ける現状をどのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

議員おっしゃるとおり、令和元年度まで200人を超えていた出生数が、令和2年度以降、170人台にまで減少してきてるといった状況でございます。その分析といたしましては、私どもで申し上げられることとすれば、出生率がなかなか上がっていかないところが、まず大きなところかと思っております。

また、未婚化ですとか晩婚化といった流れが、社会情勢を反映した上で、個人の価値観といったことになってございまして、それに伴ってなかなか婚姻が進まない。また、それに伴って、出生数がなかなか伸びてこないといった現状があるものというふうには考えてございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

この問題で様々な、お母さんでありませうか、それとも新生児の、それと新生児のお母さんでありますとか、いろいろお話を聴いてきました。市のほうでは、子育てに力を入れて、今度は子育て支援センターも造る計画にあるからと言いましたが、そこの10億円を超えるような子育て支援センターを造るよりも、子育て支援金を配付してほしいと。いかに私たちが苦しいか、特に出生から小学校、中学校までは、それなりの補助はあるけど、高校から大学にかけては一切ないと。一番苦しい時期であると。私たちは、本当に生活が苦しい。はっきり言ってそんな中で、箱物行政といましようか、十数億円もかけて造るというのに、正直言って怒りを覚えるということですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

子育て支援金をというふうなご要望というふうに受け止めております。現在、糸魚川市のほうでは、妊娠から出産、子育てに至るにつきまして、例えば妊娠時にはお祝い事業の商品券の給付、また出産後につきましても、現在5万円の商品券を給付する。以降、例えばお子さんですと、医療費が大変かかるという部分では、医療費助成を一部頂きながら、実施したり保育料の無償化といった部分で各種負担の軽減という中で、生活のほうを少しでもサポートしていきたいといった体制を取っているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

大学等の進学の際には、UIターン修学資金返済支援事業という補助金にはなりますけれども、そういった制度も設けて、なるべく保護者の皆様方のご負担、それからまた、UIターンの促進といったものを図っているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

今、こども課と企画定住課からいろいろ取組が紹介されました。議員の言われるように出生してから中学、非常に医療費ですとかを手厚くやってるんですね。今言われるとおり大学、やっぱりお

金がかかります。ここには高等教育課ありません。みんな出て行って、家賃を払わなきゃいけない。そういったところは非常に思っております。修学資金の制度で、微力ながらそういったUターンのところへは支援をしておりますけども、あとやっぱり国策でも、やっぱりお金がかかるというところは、何とか支援してもらえないのかなというところで、国のほうもちょっと動きあるようございますが、まだなかなか具体的なものは見えてこない。そういったところも含めて、その部分、いわゆる大学の部分というのは、やっぱり議員のおっしゃるとおりだと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

様々な制度をやる。市民の声も聴く。もう少し聴いてくださいね。かなり疑問だとか制度の理解を欲しがってるので、皆さんたくさんいらっしゃいます。それでも若者が帰ってこない、定着しない、これについては、今少し、一端を話してもらいましたけど、どのようにお考えになって、どのように定着、もしくはIUターンを促進させる気なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

UIターンにつきましては、情報発信といった部分で若干まだまだ足りない、不足している部分もあるかと思っております。より効果的に、あと当市での暮らすですとか働くといったイメージをしていただけるような糸魚川暮らしと、糸魚川で生活していただける具体的なイメージを持っていただけるようなところをウェブページ等で紹介させていただくとともに、またほかのUIターンのみならず、移住というところで申し上げさせていただければ、ワーケーションですとかお試し移住といった体験の推進によりまして、関係人口といったところから緩やかな移住を促進してまいりたいというふうには考えてございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

確かに今そういうことに取り組んでいて、結局、安心して糸魚川は、安心して産み育てる環境にありますか、産婦人科の問題等、将来に不安を感じてるんじゃないんでしょうかね。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

若者が住みやすく、定着できるまちづくりといったことにつきましては、やはり就業、仕事の部

分ですとか、それから婚活につながるような出会いの場ですとか、また、それに伴って結婚、出産、子育て、教育といったことがサイクルになってつながっていくと。それぞれライフステージに応じた支援をしているところではございますけれども、今ほどおっしゃいましたようなところで不安に持たれないような取組というのを庁内連携して進めていかななくてはならないというふうには考えてございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

この人口問題は、自分が31歳で市議員になってから若者定着、どうすれば若者が増えるかというのをずっと取り組んできた。いまだ全く解決されてない。より悪くなっている。日本全国全体が、先ほど示したように子供の数が少なくなっております。各市町村単位で言うならば、それぞれが新たな施策を出して、こっちの水が甘いぞってやっています。若者、自分たちの町で生まれた子供たち、さらに人の町で生まれた子たちまでこっちに来いと、これがIターンですね。

したがって、よっぽどの施策の展開をしない限り、糸魚川市に定着する若者は少ないと思われま。現状、コロナの影響もあって、コミュニティ不足ですよ。やはり会話がな。人の顔が分からない。そういったことに応じて、友人関係が希薄になっている。友人関係が希薄になると、地元へ戻る意味がないんですよ。このことについて、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

確かに全国UIターン、引っ張り合いでは、結局、抜本的な解決にはならないというふうに思っております。したがって、経済的な支援というのは、平成27年の地方創生のときに、一応仕組みというのはつくってきたつもりであります。

ただ、それだけでは駄目だと思うんですね。やはり大規模な発信じゃなくて、小さなつながり、個々のつながり、地縁、そういったつながりを何とか保って発信する中で、小さくてもいいので戻っていただく。そういったつながりというのは、コロナの関係でちょっとそこら辺、希薄化になっていっているのは、また私たちも承知いたしております。そういった中で、よりつながりというのは、一つのキーワードだというように私は考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

基本的に地元の持つ強みはふるさとの味、ふるさとの香り、ふるさとのぬくもりなんですね。そこが薄くなったということは、より定着しないということになります。最も地元に対する優位性が薄められてしまい、これからは医療であるとか、やっぱり就職であるとか、そういったことを最優



先に子供たちは考えている。さらに学校もそう、自分たちの将来にとって、どこが一番魅力的なのか、糸魚川でそれが可能なのか。だから、中学校時代から中高一貫教育に出ていく。高校だって全県下、ほかの学校へも行く。今スポーツが見直されておりますが、要するにスポーツを一生懸命やってることは学業と一緒になんです。自分たちの命をかけて、やっぱり将来をかけてスポーツもやる、文化もやっている。だから、学業だけが全てじゃないんです。なのに、その項目が減らされるということは、高校時代、中学時代から、やっぱり糸魚川を離れるということなんです。一旦、糸魚川を離れたら、帰ってきませんよ。もしくは帰ってこれるだけの整備をしてあげなくちゃいけない。

あと、衣食住と言いますね。私は、医療の「医」と書いて、食は就職の「職」、住は「住みか」、やっぱり医職住を整備してあげないと、子供たちも残っちゃこないということ。

それからもう一つ、今、企画定住課長が話してくれましたけど、実は、若者の定着問題、人口問題は、企画課だけで考えても進まないんですよ。庁内全体が横断的に進めていかないと、私のところはこうやっているとやらない限り、絶対に進まない。各課ともに担い手不足に悩んでいると。この辺の調整を図るべきだと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

私も前任は企画定住課長でありました。確かに企画定住課だけでやっても進まないと思います。政策はつくってもなかなか。ですから、今、全庁的な各分野でも、医療の問題もそうでしょうし、商工観光の部分もそうでしょう。農林もそうです。担い手というような形で、やっぱり今直面してきているのがあります。そういったところをやっぱり担当部課長も、自分ごととしては考えてると思いますけども、そこら辺のつなぎ合わせというのは、企画中心になって、横断的にやっていかなきゃいけない。今までもやってきておりますけども、より情報の共有を進めながら、庁内連携というのは進めていかなければいけない、民間も含めてですけども、考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

庁内連携を図って、人口対策、人口緊急事態宣言にしてもいいと思いますよ。そのぐらい糸魚川の将来、未来がかかっている問題だ。今の子供をこれ以上減らすわけにいかないという観点に立って、総合計画の中では減らすことを前提にまちづくりをやっているけど、こんな計画なんかない。減らさないためにどうするか施策を展開するのが大事。

最後になりますが、この項目の最後になりますが、イトヨプランね。イトヨはご存じのように、サケと同じで地元の川で生まれて、大海に、海に出てから、また地元の川へ匂いを頼りに帰ってくるんです。ここの大きな差は、雄が巣を作って、雌に卵を産ませて、雄がかえして、雄が育てるんです。そして、その子供たちは、また大海に行って戻ってくる。だから、イトヨプランにされたらどうか。これこそ育児の一つのプランニング、イメージ像がそこにあります。

それから、今これから産もうという人、産んだ人、それから子育て中の人には、それぞれ情報は行ってるけど、それぞれの今度は連携的な情報がないんです。だから、生涯一体化になったプランニングを、これから産もうという人にも、就職のこの情報を与えてあげるんです。将来に対する設計ができれば、糸魚川に残ろうという考慮になります。そのときにいって考えるのではなくて、最初、小学校のうちから高校の頃を考える。中学校のときから大学を考える。やっぱりいろんな意味で、人々というものは、市民のというものは、将来を考えます。将来に不安を感じたら、そこに残りません。この言葉を十分理解して、ぜひ何とかイトヨプラン、もしくは総合プランに取り組んでいただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

議員の熱い思いは、よく伝わってまいりました。今、お気持ち、ご意見でありますけども、私のほうではやっぱりもうちょっと、それぞれが意識を高めるというのが1つというふうに私は捉えました。

あともう一つは、生まれてからも長期的な視点、そういった目を持ってよというご提言だったと思いますので、そこら辺も含めた今の施策がどうつながっていくのか、もっと視点を考えながら取り組んでまいりたいというふうに考えます。

○議長（松尾徹郎君）

質問の途中ですが、ここで暫時休憩いたします。再開を1時といたします。

〈午後0時02分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

それでは、大きな2番の項目へ入らせていただきたいと思いますが、新人の議員さんも過半数を数えるようになって、そして、市長以下、副市長も教育長も去年、代わられた。3部長も引退されて、顔ぶれも変わった。教育次長しかりです。新しく出てきた課長さんもたくさんいらっしゃると思う。

でも、新たな総合計画に沿って、新たな一歩もやっぱり踏み出そうとしてる。自分としてもそれも応援していきたい。けど、過去の責任というのは、ついて回るんです。この責任を明確にしない限り、新しい一歩というのは踏めないんです。分かりますか。それが官製談合であり、権現荘であ

り、前副市長の公職選挙法違反であります。やっぱりこういった問題を解決しない限り、米田市政は前に進めないのではありませんか。問題解決と説明責任を明確にさせていただきたい、そういう思いで質問させていただきます。

官製談合事件、そもそもは市役所のトイレ工事でしたよね。最初の疑問は、なぜ県警による、2回、2度も入札中止になったのか、この件についてお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

これまでの答弁と、ちょっと繰り返しのなってしまうかもしれませんが、まずは県警のほうから、連絡があって、工事のトイレの関係でちょっと問題があると。そういう連絡を受けて、これを受けますと、市役所として、もう外部からそういう連絡がありますので、まず、入札は、かかっている案件については、まずは止める。それは鉄則になっておりますので、そういった情報がありましたことから、入札のほうは中止をかけた。まずは中止をかけたということであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

前からある。それはまた詳しく聞きましょうね。

さて、捜査情報を漏らさないという警察が、なぜ行政に対する入札の中止要請をかけて、行政がこれに応じたか、しかも1回じゃないですよ。同じ入札で2回です。じゃあ行政は、なぜ2回やろうとしたのか、そこをお答えください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

お答えします。

まず、当方のところでも、やはり状況のそういった連絡を受けながらも、その原因とかそういったものが払拭できないという形で、たしか表現したと思うんですが、払拭できないというところがございましたので、入札は2回も止めたということであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

払拭できない内容とは何ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

そういった外部からの通報に対して、明解な原因がよく分からないというふうに表現させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

じゃなぜ押上駅のトイレは、入札やったんですか、工事を進めたんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

今回、県警のほうから連絡があったのは、庁舎のトイレということで限定でございましたので、新駅のほうのトイレまでは、想定いたしておりませんでした。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

しかし、逮捕されたのは、市庁舎のトイレ工事ではなくて、新駅の押上駅のトイレだった。なぜですか、どうもつじつまが合わない。疑わしいから中止にした。これは国家権力、警察権力の行政権の侵害です。

片や、疑わしいからやめとけって言っていた警察が、逮捕される押上駅のことに関しては、全く何も言ってませんね。つじつまが合いませんよ、これ何ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

まあ、その点につきましては、やっぱり捜査機関の中での判断だというふうに思いますので、そこら辺については、私どもとしましては、承知いたしておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

まあと言われても困りますね。承知してませんと言われても困りますね。こういったことの行政責任というのは、説明責任というのは行政にあると思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

分かる範囲、庁舎のトイレについては、広報等、プレスの方にも中止という形で説明はいたしておりましたが、押上のトイレについては、警察当局からの周知のとおりであるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

これやると長くなりますからね。結局のところ、要は、権力のまばらな情報だと思います。分かる。疑わしいからやめなさいというんだったら、この押上の駅のトイレだって、談合の疑いがあるからやめなさい。事件にならなければ、警察立場ないよね。なのに何でじゃあ警察が、市役所のトイレを2回にわたって止めたか。何で押上の駅のトイレは、逆に教えなかったのか、不思議ですね。これもいずれ説明しましょう。

さて、こういった官製談合の鍵を握る元係長の接見禁止は、なぜ起こったのか。初日には、市長のほうより、行政報告として接見申込みの法的措置は、会えないということになってますね。これ何ですか。もう一度詳しく教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

昨年の12月に文書で、この「はびねす」の件も含めてであります。違算も含めて照会いたしておりました。その答えが、令和4年の1月に入ってから来ております。本人については、職務に専念したいということで、これ以上の回答については申し上げられないという回答を頂いております。さらに今回、改めてコンプライアンス調査推進特別委員会の意見を踏まえまして、面会を申し上げたところではありますが、その前回の内容と同様に、こういった質問は差し控えていただきたいという回答を改めて伺いまして、なかなか相手が弁護士でございますので、接見ができないというふうに私どもは判断いたしました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

接見禁止で内容が分からないので、何とも申し上げられませんでは済まない。元係長がいよいよ、いまいが、基本的には、説明責任は行政側なんです。この責任は、誰が取るんですか。元係長いないから、責任取れませんじゃあ話になりませんね。筋論といいますけども、やはりこういった行政の仕事やそういう仕事は、やはり費用対効果、次は、責任と義務ですね。これをやはり明確にしていかなきゃいけない。今回の、何ていいますか、県単価漏えいの、例えば県単価漏えいの責任、これは3度にわたってありますね。これは誰が取るんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

責任といいましょうか、今いろんな事柄についての責任は、また責任はその都度いろいろな取り方があると思いますが、最終的には市長の私だと思ってます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

県単価漏えいの責任は、市長にあると。じゃあ最低価格の漏えいの責任は、誰が取るんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

今、議員のご質問は、「はびねす」の違算によるものというふうに捉えさせていただいて、お答えさせていただいてますが、漏えいの、入札の価格ですとか、そういった漏えいがあったかどうかというのは、事実関係が分かりませんので、その点については、ちょっと責任というのは、私どものほうでは状況がまず分からないという状況です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

それでは、この最低価格漏えいによる、まあいいや、漏えいしてないという。じゃあ何で失格業者と契約したんですか、何ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

まず、入札執行時には、違算があるというのは、ここと行政側は分かっておりませんでした。当然、適正な価格であるというふうなもので進んでおりました。

そこで、その予定価格の範囲内でいきますと、今回、受注した方が一番予定価格と最低制限価格の範囲の中で、最も低い事業者でありますから契約をしたと、こういうことです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

こういうことですよと言われても困りますね。あのね、最低価格漏えいというのは、れっきとした公職選挙法違反ですよ。

青森県今別町の町長が、最低価格を漏えいした罪によって逮捕されました。現職の町長ですよ。皆さんは、最低価格で失格業者とやっても実害がないから、オーバーしたわけで、高く金取ったわけではなくて、安く受けたんだからいいじゃないですかと思ってませんか。最低価格だって、その最低価格を下回った業者と、言わば契約してしまうことは、これはれっきとした違法ですよ。分かりませんでしたじゃない。また、でもない。まあでもない。責任を取ると、しっかりとお答えください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

最低価格の漏えいというふうに議員おっしゃってますけども、その部分についてはしっかり確認ができていないですし、相手方の業者のほうには、確認しましたところ、そのような情報提供を受けてないということで、文書で回答を頂いております。

ただ、間違った設計に基づいて行われた入札だということについては、市長も再三申し上げておりますが、市に責任があるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

最低価格の下回った業者と契約したことによって、適正な価格で入札、本来ならできるべき企業は、何て言ってますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

本来、受注できたと思われる企業の方には、おわびということで、状況の経過等を説明させていただいております。その段階で、お会いすることは、ちょっとコロナの関係もございましたし、できなかったんですが、お電話でお話しをさせていただいて、状況のほうは分かりましたということで、お答えを頂いてはおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

それは今後のこともありますからね、そういうことは分かりましたよって、だから訴えませんでした。

さて、今回のことは、公契約関係競売入札妨害罪、ダンピングだよね。安くても駄目だ。最低価格は何でできましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

ここは公共工事は品質を確保するというところで、ただ安くて安価なものを造られては、公共ですので多くの人を使う。そういったところでの品質の確保というのが大事だと。そういった法律に基づいて、ある程度一定のラインを決めて、最低制限価格を設けるということで設けております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

たった一つだけの条件で最低価格が決められてるわけじゃあない。最低価格を決めることによって、品質を確保すること、そして、それに伴う労働条件を確保することである。やっぱり労働者を過酷な労働環境から守るために、この最低価格というのは当然ある。それから次には、資金力に物を言わせて、要するに弱い立場の業者から仕事を取らないようにするためである。だから、最低の収入の分は、ちゃんと計算で出しておいて、一応これを下回らないように出してくださいというのが、最低価格である。分かりましたか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

私が答えた品質の確保という面で答えてしまいましたが、議員の言われました公契約という要素で、やはり働いてる方の賃金ですとか、そういったものもやっぱり確保していくという要素はあると思います。その辺のところ、ちょっと私のところで言葉が足りませんでした。申し訳ありません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

その最低価格についての認識が甘いから、自分たちでしっかりと探そうという気にならない。今回の原因を定めようという気にもない。だから、談合天国でやゆされるんじゃないですか。元係長は、発覚してしまっ、捕まっ、運が悪かったと思ってるんですか。彼だけじゃない、過去にもやってきてるのに、たまたま彼が捕まっ。そういうふうに庁内でも話しませんか、いかがですか。



〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

今、古畑議員おっしゃったようなことについては、庁舎内ではそのような話にはなっておりません。

ただ、そのようなことが疑われるということであれば、当時しっかりいろんな指摘があった中で、チェックできなかったことについては、やっぱりしっかり反省しなければいけないというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

そういう考え方であるなら、新潟裁判所で行われたときに、元係長、要するに被告と談笑してた市の職員というのはどなたですか。運が悪かったねと大きな声で言って、しかもそれ、マスコミの前でやってたというんだ。覚えてませんか。そのとき誰が行きましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

裁判の傍聴に行きましたのは、もう前総務部長であります五十嵐部長と私と財政課長と、あと都市政策課長が行かせていただきました。

ただ、いわゆる辞めた元職員と談笑しておったという場面は、私見ておりませんし、特にそういうお話は聞いておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

それでは、次へ行きたいと思いますが、見てないんじゃないでしょうか。そういう苦情が来ましたので、私も見てない。けど、そういう苦情は来た。気をつけましょうね。

じゃあ今度は、行政責任、また元に戻りますよ。だけど、この最低価格、要するに失格業者との契約については、認印を、決裁印を行政のほうは5人も押してますよね。最終的には市長がおっしゃったように、市長決裁によって今回は契約が成立してますね。これはどういうことですか、ということは、行政に今回の責任がある。久保田元係長が、駄目だということになれば、もともと彼を責任追及していこうなんて、私は思ってない。行政の責任をどうするんだと。知りません、接見できませんでした。会えませんでした。弁護士に言われましたから、そんなん理屈じゃないんですよ。

私はこれを行政としてどう責任取るんだと聞いています。お答えください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

元職員は、別の事件で懲戒免職となって、今もう職員ではございません。そういった面で、会うというのはなかなか難しい状況であります。行政として、元職員も含めて、そのような事実があったわけですから、最終の責任については、やはり行政にあるというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

最終責任は行政にある。で、だから、どう責任取るんかということ聞いてます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

行政の責任の取り方でありまして、その前段には、こういった違算があつて、本来受けるべき方が、応札者が代わってしまった。これは非常に事務方としては事務処理という面もありますので、まずはそこについては、当事者のところへの謝罪というのは大事だというふうに思っております。まずそれが、1つ行政の責任の前段としての対処方針。それと再発防止に向けたチェック体制の強化、そういったところは、私が今答えられる責任の、首以前の問題としての対処の仕方、そういった面では、私が答えられるのはちょっとこの範囲でということになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

答えられないのによく、何で答弁に出てきたの。私は、行政責任はどうするんかと聞いてある。答えられる人が出て来てください。この事件の全容をよく知ってる方、皆さん新しくなりましたか。そうならば市長ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

その責任の、今、部長が申し上げたとおり、今内容については皆さんご存じのとおり、その違算という形で今捉えておる部分があるわけでありまして、そういったことが起きたことに対しての行政責任は、市で取っていかなくてははいけないという形では受け止めておりますが、具体的にどの

ような責任というのは、まだ我々といたしましても固めてはいませんが、応分の責任は取っていかなくてはならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

責任を取るべく職員は、もうみんな定年退職したりしていません。あのね、私が優しいのはね、今の部・課長たちに責任を取れつつあって、これ過去に対する責任だよ。だから、あんまり強く言わない。じゃあ昨年度までは、なぜ強かったかと、そこに当事者がいたからです、分かりますね。これからは、しかし過去に対する責任、これを行政責任と言うんだよ。継続だからね、責任は。

したがって、我々行政としては、どう責任を取るべきかを論議しなくちゃいけない。会いたいつつうのに弁護士が駄目だというから、会えないから知らないじゃないんですよ。そんなのは終わらない。被害者が糸魚川市、強いて言えば糸魚川市民、それに対するしっかりとした説明責任をやらなくちゃいけない。これについては、この後、コンプライアンス調査推進特別委員会がありますので、そこでしっかりと打合せをしていきたい。

それから、おかしいと指摘した元議員に対して、1万円の価格差はないだろうと、これはしっかり計算したのかということに対しては、ちゃんと計算した結果で問題がありません。最低価格から100%の間に入札できれば、この入札は成立します。そんなときには、元係長がいたんです。分かる。そのときに計算を確認しておけば、こんなことにならなかった、違いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務部長。〔総務部長 渡辺孝志君登壇〕

○総務部長（渡辺孝志君）

お答えします。

令和元年度の市民厚生常任委員会のことを言われてるかというふうに思っております。その当時、平成30年度決算で会議録を見ますと、元議員のほうから、その時点でお尋ねがありました。その時点では、行政側はやっぱり最低制限価格と予定価格のこの範囲内に入ればいいんじゃないかと、そういった答弁をいたしておりました。

ただ、今振り返ってみていけば、その時点で、もし設計書の内容とかを見てれば、結果論かもしれませんが、分かった可能性はあったものと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

あのね、結果論としてじゃないんですよ。経過論だ。そのときに指摘されていたんですよ。それを何でもないので、やってきたんでしょう。判こ5つも押して、市長決裁で専決分やったんでしょう。そらおかしいですよ。この責任を誰が取るんだ。どう取るんですか。議会に対する虚偽の答弁。虚偽の答弁というのは、うそをついたということです。これは、自治法にも書いてあります

けど、虚偽の答弁はしてはならないということになってます。これは罪が重たいですよ。副市長、どう思いますか。さっきから新任の企画部長ばかりしゃべってますけどね、副市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

その当時、議会からの指摘もあって、しっかりチェックができなかったということについては、本当に重く受け止めております。

また、その前段で決裁の前になりますかね。担当の時点でもチェックかからなかったということで、2回チャンスはあったわけですが、そこをチェックかけられなかったということは、本当に重く受け止めて、反省しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

反省で済めば警察は要らないとよく言われますよね。この行政責任は、誰が取るんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

先ほども申し上げたとおり、やはり内容によって、今かなり違うわけでございますので、確かにその当時、チェックを何度もしてきたわけでございますが、それをすり抜けておる部分でございます。この田中議員の調査の中で明確になったという事柄でございます。

先ほどから虚偽とかと言われますが、虚偽ではない、我々といたしましては、知っていて違う答えをしたんなら虚偽なんですけど、その当時は、分からなかったもので、お答えさせていただいておるわけでございます。決して、虚偽をしたわけではございません。その辺の違いもあろうかと思いますが、最終的には私の責任だと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

知らなかったでは通りませんが、今回の責任は私にあります。米田市長ですね。

時間がないので、3番の能生町観光物産センターへ行きたいと思っております。

いいですか、そもそもこの観光物産センターに、やっぱりそもそも指定管理者に至る経緯は何だったんでしょうか。なぜ指定管理者になってった。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

指定管理者制度になりましたのは、平成29年からになります。29、30、令和元年と1期、今、2、3、4の2期目を迎えております。29年度におきましては、市内企業等に説明をしましたが、その後、緊急に指定管理者を決めたいということから、決裁行為によりまして、特命随意契約ということで、能生町観光物産センターを指定管理者としております。

また、次の2期目につきましては、全国公募いたしましたでしたが、同社のみであったことから、現在も継続して指定管理者となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

この指定管理者、民間のほうからの説明会への要望も多かった。出席も要望もあった。けども、緊急を要することで特命随意契約にした。この責任はどなたですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

今のお話につきましては、平成28年9月9日付の決裁を得て、指定管理者の導入について承認いただいておりますので、行政で決めたということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

特命随意契約にしたということについては、そのことそのものに責任というのではないというふうに思っております。

〔「議長、分かりません、最後聞こえなかった」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

もう一度、答弁お願いします。

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

特命随意契約を結んだということについては、行政の責任はないというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

市長、それでいいんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

それでいいと私も思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

今回、マリンドリーム、株式会社能生町観光物産センターを特別に随意契約したのは、全て私の責任です。委員会の中で、市長、あなた申し上げてますね。私はしっかり覚えてますよ。二枚舌使うつもりですか。これは虚偽の答弁ですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

何度も申し上げてるとおり、行政の行ってることの最終的な、またその責任は、全て私があると思っております。ですから、今のその制度についてどうなのかと言われましたので、それについては、その責任というところには至ってないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

能生町観光物産センターは、その株主の50%を、株式の50%は糸魚川市が持ってますね。ということは、糸魚川市民だ。糸魚川市を代表するから市長が、その最初は社長であった。その後、副市長が役員として派遣されるようになった。では、この50%の何といいましょうか、株式会社能生町観光物産センターが、権現荘の運営に対して赤字になってる責任を誰が取りますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

ももとは公共施設、市の施設でございますので、市にも責任がありますが、運営側も何と申しますか、しっかり黒字化できなかった。今回、コロナ禍ではありますけども、そういった部分では、運営側にも責任があるかというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

話を先に進めましょう。3月議会で、あれだけ賛成・反対をやった権現荘に対するリスク分担、いわゆる補正予算が、1,000万ちょっとの値段で出ましたよね。可決されました。結局、蓋を開けてみれば、執行率26%の260万ですか、280万円か、しか使ってませんよね。これは積算的な根拠に間違いがあったんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えします。

当初の積算等に誤りはあったわけではなく、その後に休曜日数を増やし、雇用調整助成金が増額になったこと、また、売上額が3月の後半にコロナ禍の回復傾向があって、約170万円売上げの増があったこと、また、経営努力で支出を240万程度抑えたことなどが原因で、730万円あまりが予算残となったものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

では、平成3年度の計算が正しかったとしたら、平成2年度、3,000万円以上の補助金出していますね、リスク分担で。こちらは払い過ぎじゃあないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

令和2年度の補填につきましては、市の方針として各施設ゼロまで補填をするという市の方針でありましたので、これについては、それまでの金額を補填させていただいたということでございます。こちらは権現荘だけではなく、ほかの施設でも同様です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

民間企業は、この間にも閉店や倒産、様々な苦境を味わっています。それでも市が出してくれた協力金やいろんな交付金、国がくれた、支給してくれたもの、それで何とかやり繰り、駄目なところは残念ながら倒産もした。けど、権現荘は、去年はプラマイゼロの黒字ですよ、違いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

高野能生事務所長。〔能生事務所長 高野一夫君登壇〕

○能生事務所長（高野一夫君）

お答えいたします。

令和2年度につきましては、先ほど申し上げましたようにゼロ円まで補填しておりますので、プラスマイナスゼロとなります。令和3年度につきましては、権現荘単品で見ますと補填をした後であっても、約2,500万円の赤字が出ているものというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

それでは、いろいろお聞きしたいこともありますが、時間がなくなってきましたので、ただやっぱり民間移譲の機会を潰した。議会側は、ここは民間移譲すべきじゃないか。議長も地元の産品を売る場所にすればどうだ。日帰りの温泉も出てきた。いろんなアイデアも出てきた。指定管理で市は直営でやるのは厳しいよという中で、4億円ものリニューアルをやって、そして民間移譲の機会を潰したのは、市長、あなたですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

経過については、古畑議員もご承知のとおりだと思いますが、やはり設立時においては、非常にこの収益を上げていた施設だったわけでありまして。時代の流れによって、厳しくなってきました。そういう中で、やはり誘客施設というところを強く打ち出してる部分もございますので、それに対して、対応しなくちゃいけないということで、専門的なところからいろいろご指導いただく中で、そういったところは原因を追究しながら、リニューアルをしてきました。そのリニューアルはどうかということ、やはり赤字化をしないような施設にしないといけない。そして、地域の振興の核になっている部分もあるわけがございます。そういったところを対応する中で取り組んでまいりました。そして、今ご指摘のようにどういう形であれ、直営はやめなくてはいけないという中において、そういったときにやはり黒字という形を見せていかないと、その施設は赤字施設だとしたら、誰も手を挙げないだろうということで、黒字化を目指す中で、リニューアルしながら対応してまいりました。そして、黒字化という姿が見えたところで、指定管理に移行させていただいたわけがございますので、経過といたしましては、そういった時代の流れの中で進めてまいった施設でござ



います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

権現荘については、なぜ指定管理になったか。その前、市が雇用した支配人が、実質横領事件を起こして、辞めたことが赤字の大きな原因だった。私たちは、議会側はそれを証明しようとした。残念ながら、酒を飲んだ分のものしか、不当に飲んだものしか出なかったけど、それでも実質被害で警察は検挙して、裁判までいった。

ただ、糸魚川市は、それを迷惑料だとして三十何万を受け取ってしまった。このことによって、起訴猶予になる。無実じゃないんですよ。起訴猶予になって、解放されたんじゃないですか。違いますか。誰もいない、市長しかいない。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その猶予になった経過とかというのは、なかなか我々は知り得ておりません。

ただ、結果しか分かってないので、果たしてそれが、そういった理由がどうかは、私は知り得ていない状態でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

知らぬ存ぜぬは、私には通用しません。

さて、全ての責任、全ては市長、あなたにあります。ごみの不法投棄から検査ミスによる水銀の問題、中学校運動部のいじめ事件など、これまでの問責機会は3回、7回の減俸処分、ほかにも責任を取って辞めた副市長、教育長、次長、学校長など、もう切ろうにも切れるトカゲのしっぽなどございません。自らが責任を取って、辞職すべきじゃないですか。市長さん、どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いろんな事柄が起きております。そういう中で、私はやはり最高責任者として、その中で責任を取って対応してまいりました。私に起因するような問題であれば、今議員ご指摘のような形になるかと思いますが、そういう中で私といたしましては、職員と一体となって仕事を進める中において、この仕事の中での責任という形で取らせてもらってまいりました。私は、今、辞職するつもりはご

ございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。

○17番（古畑浩一君）

米田市長、あなたを市長に擁立したのは、私たちのグループだ。よって、今回、辞めろと言えるのも、私だと思っています。私たちの多くは死にましたからね。市長に頑張ってもらいたいという、米田さんに頑張ってもらいたいという気持ちは、あのときは強かった。私もやりますということで、米田市長の言葉も力強かった。けど、今となっては責任を部下にもうなすりつけたり、トカゲのしっぽを切るようなことをやゆされてみたり、もはや新しい時代を歩み、一步を踏み出そうとしております。

○議長（松尾徹郎君）

時間が参りました。

○17番（古畑浩一君）

だから、米田市長におかれましても、自らの責任を明確にして、辞すべきだと改めて申し上げます。

申し訳ございません。終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

これをもちまして、一般質問を終わります。

以上で、本日の全日程が終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後1時44分 散会〉